

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果について

二宮町教育委員会

## 1 はじめに

平成 30 年 4 月に実施された「平成 30 年度全国学力・学習状況調査」の二宮町立小・中学校の調査結果の概要をお知らせします。二宮町教育委員会では、調査結果及び課題等を公表することにより、町民の皆様をはじめ児童生徒に関わる様々な立場の方に関心をもっていただき、二宮町の学校における教育指導の充実や児童生徒の学習意欲の向上につなげていきたいと考えております。

本調査の結果は町全体のものであり、各学校や児童生徒個人の学力や学習状況を表すものではありません。また、本調査は児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面の結果です。

町民の皆様におかれましては、本調査の目的及び結果公表の趣旨をご理解いただくとともに、数値結果だけを重視するのではなく教育の過程も考慮いただき、本町の児童生徒の健全育成のために公表資料を有効にご活用くださいますようお願いいたします。

## 2 調査の概要

### (1) 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ・以上のような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

### (2) 調査の内容

- ・教科に関する調査（国語、算数/数学、理科）
- ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

### (3) 実施期日

平成 30 年 4 月 17 日（火）

### (4) 調査を実施した児童生徒数

小学校 6 年生 2 1 8 人（3 校合計）

中学校 3 年生 1 9 7 人（2 校合計）

### 3 調査の結果について

#### (1) 教科に関する調査の平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差

※ 平均正答数：児童生徒の正答数の平均。(正答数の平均/総問題数)

平均正答率：児童生徒の平均正答数を百分率で表示。ただし、小数点以下第1位の数値を公表することが、数値データによる単純な比較が行われ、序列化や過度な競争を助長する一つの要因として考えられることから、平成30年度、文部科学省は都道府県別の平均正答率を整数値で公表。都道府県に対しても同様の配慮を求めていることから、二宮町の平均正答率も小数点以下第1位を切り捨てて表示。

中央値：集団のデータを大きさの順に並べたときに真ん中に位置する値。

標準偏差：集団のデータの平均値からの離れ具合を表す数値。

[小学校]

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語 A	8.2 問/12 問	69%	9.0	2.8
国語 B	4.4 問/ 8 問	55%	5.0	2.0
算数 A	8.9 問/14 問	64%	9.0	3.2
算数 B	5.1 問/10 問	51%	5.0	2.7
理科	9.9 問/16 問	62%	10.0	3.2

[中学校]

	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語 A	24.0 問/32 問	75%	25.0	5.1
国語 B	5.6 問/ 9 問	62%	6.0	1.9
数学 A	23.8 問/36 問	66%	24.0	7.8
数学 B	6.3 問/14 問	45%	6.0	3.6
理科	17.2 問/27 問	64%	18.0	5.3

#### (2) 各教科の概要について

[小学校：国語]

	良好な設問	課題が見られる設問
A	・相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す	・登場人物の心情について、情景描写を基に捉える ・漢字を正しく使う
B	・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる	・目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える ・目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む

[小学校：算数]

	良好な設問	課題が見られる設問
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>異種の二つの量のうち、一方の量がそろうときの混み具合の比べ方を理解している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる</li> <li>小数の除法の意味について理解している</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる</li> </ul>

[小学校：理科]

	良好な設問	課題が見られる設問
	<ul style="list-style-type: none"> <li>堆積作用について科学的な言葉や概念を理解している</li> <li>より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係づけながら、分析して考察できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>骨と骨のつなぎ目について科学的な言葉や概念を理解している</li> <li>人の腕が曲がる仕組みを、模型に適用できる</li> </ul>

[中学校：国語]

	良好な設問	課題が見られる設問
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する</li> <li>段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる</li> <li>文脈に即して漢字を正しく読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字を正しく書く</li> <li>行書の基礎的な書き方を理解して書く</li> <li>歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す</li> </ul>

[中学校：数学]

	良好な設問	課題が見られる設問
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>単項式どうしの除法の計算ができる</li> <li>文字式に数を代入して式の値を求めることができる</li> <li>反比例についてグラフと表を関連付けて理解している</li> <li>与えられた資料から中央値を求めることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絶対値の意味を理解している</li> <li>数量の大小関係を不等式に表すことができる</li> <li>四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の1/3だと理解している</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる</li> </ul>

[中学校：理科]

良好な設問	課題が見られる設問
<ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる</li> <li>・アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる</li> <li>・地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けている</li> </ul>

どの教科、領域も全国や神奈川県の結果と比較して著しい差異は見られません。選択式、短答式、記述式など解答方式による平均正答率も全国のそれとおおむね同じ傾向です。正答数の中央値は小学校では国、県とほぼ同じで、中学校では国、県とほぼ同じ、または若干下回り、多くの児童生徒が国や県の平均的な児童生徒と同様に学習内容を理解しています。

考えをまとめて表現したりすることや、情報や条件を整理したりすることは全国の平均を上回っていました。

その一方で、漢字や歴史的仮名遣いの読み方、数量の関係や式・計算の意味、科学的な言葉や概念の理解など基礎的な内容に課題が見られました。繰り返して学習をしたり、家庭学習と連動したりするなどして定着を図ることが望まれます。また、学校に対しては、文部科学省、神奈川県教育委員会が公表している「授業の改善・充実を図るポイント」を活用するとともに、自校の調査結果を全教職員で分析し共有することを求めています。

(3) 児童生徒質問紙調査の概況について

<生活習慣や学習環境等に関する調査結果> (抜粋)

**太字**：全国比±5%以上

質問番号	質問内容	小学校(%)			中学校(%)		
		二宮町	神奈川県	全国	二宮町	神奈川県	全国
1	自分にはよいところがある	<b>90.3</b>	83.4	84.0	81.8	77.5	78.8
2	先生は良いところを認めてくれる	86.6	83.1	85.3	82.7	79.6	82.2
3	将来の夢や目標を持っている	<b>80.1</b>	83.7	85.1	75.1	70.4	72.4
4	学校のきまりを守っている	88.5	87.6	89.5	96.5	93.6	95.1
5	いじめはどんな理由があってもいけない	97.7	96.1	96.8	94.4	93.3	95.5
7	朝食を毎日食べている	92.7	94.4	94.5	87.3	90.0	91.9
8	毎日同じくらいの時刻に寝ている	77.4	76.2	77.0	<b>62.0</b>	70.2	74.2
9	毎日同じくらいの時刻に起きている	86.6	87.9	88.8	<b>82.2</b>	86.7	90.3
10	家で自分で計画を立てて勉強している	63.6	64.3	67.6	<b>40.1</b>	48.4	52.1
12	家で学校の授業の予習・復習をしている	<b>51.6</b>	55.2	62.6	<b>44.6</b>	52.1	55.2
13	家で教科書を使いながら自分で学習している	<b>63.6</b>	62.9	69.9	<b>65.5</b>	69.4	71.3
15	学校の授業以外で10分以上、読書をしている	<b>72.4</b>	65.2	66.2	51.2	46.4	53.5

19	授業で地域学習や地域の人と触れ合う機会があった	<b>81.1</b>	73.0	74.4	<b>74.6</b>	64.9	68.7
20	地域の行事に参加している	58.6	57.0	62.7	47.7	39.2	45.6
21	地域や社会の出来事に関心がある	61.3	63.2	63.8	<b>53.3</b>	56.4	59.3
23	地域でボランティア活動に参加したことがある	<b>29.5</b>	30.9	36.1	<b>69.5</b>	47.1	51.8
小 55 中 52	これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取組んでいた	76.1	75.9	76.7	69.1	71.3	73.8
小 56 中 53	これまでの授業では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や組み立てなど工夫して発表していた	59.9	61.8	61.0	<b>61.9</b>	55.5	53.8
小 57 中 54	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広めたりすることができている	80.6	76.6	77.7	72.6	73.2	76.3

※数値には、「どちらかといえばしている、そう思う」の回答を含む

自分にはよいところがあると思うと答えた児童・生徒の割合が昨年度よりも増加したことは大変喜ばしいことです。また、「学校のきまりを守っている」、「いじめはどんな理由があってもいけない」などの規範意識についての回答は全国や県と比較して著しい差異は見られませんでした。今後も道徳科の時間を中心に教育活動全体で児童・生徒の道徳性を養うことを大切にしていきます。

その一方で、将来の夢や目標をもっていると回答している児童の割合や規則正しい生活習慣が身についている児童・生徒の割合は昨年度同様、全国平均を下回っています。中学生の朝食の喫食率も全国と比べて低い傾向にあります。子どもたちが希望をもって自分の未来を切り開いていけるように、教育活動を通して世の中に関心をもてるようにすることが求められていますが、キャリア教育の推進や規則正しい生活習慣の定着については、学校と家庭・地域の協力体制が必要となります。

家庭学習の習慣については、昨年度の質問紙でも同様の傾向が見られます。学習内容を定着させ、学習習慣を確立する取組みを行うよう、学校に家庭との連携を求めています。

全国の調査結果を見ると、「課題解決に向けて主体的に考え取組んでいた」と回答した児童・生徒ほど各教科の正答率は高くなっています。授業の中では、学習内容の理解・定着・活用、言語活動の充実、ノート指導など、学校に求められるものは多いですが、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、校内研修会などを通して組織的に授業改善できるよう今後も取組んでいきます。全国の学校質問紙の調査結果によると、授業における ICT の活用頻度と各教科の正答率にも関係が見られます。各校にて、授業スタイルや学習規律を整えるなどの工夫を通じて、教員の授業力の向上を図っているところですが、ICT を活用した指導力の向上も目指していきます。

また、地域や社会に関心のある児童・生徒ほど各教科の平均正答率が高い状況にあることがわかります。また、地域の方と触れ合う機会が多いものの地域への関心を高めるところまでは難しい現状であることがわかります。ボランティア活動への参加については、昨年度同様、児童と生徒で回答が大きく異なりました。発達段階も考慮しながら地域行事への参加などを通じて、地域の一員として育つことが望まれます。次年度より二宮町内のすべての小中学校がコミュニティ・スクールとなります。コミュニティ・スクールの仕組みを生かして学校、家庭、地域との協働による取組みで教育水準の向上を目指します。

#### 4 今後に向けて

二宮町教育委員会では、本調査の結果の分析と考察を行い、その結果を各学校に示しました。各学校では、それぞれの分析を加えて課題を検討し授業改善や学校経営に反映させています。

今後とも、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とともに、これらを活用して課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育む授業づくりに努め、より効果的なカリキュラムマネジメントが行われるよう教育委員会は各学校を支援していきます。

本調査を通じて、基本的な生活習慣や学習習慣の確立、地域社会との関わりは学力向上及び児童生徒の健全育成に大切であることが改めてわかりました。二宮町教育委員会では、児童生徒の生きる力を育成するために、家庭、地域と協働しながら「地域とともにある学校づくり」を進め、児童生徒の豊かな成長を支えていきたいと思えます。今後ともご理解ご協力をよろしくお願いいたします。